

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 18人（18人中）
- ・職員による評価 13人（13人中）

○実施期間

- ・2023年1月5日～14日

○評価の数値状況

- *別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「活動場所の面積は適切であるか」の項目に、「定員と指導員さんの人数が多いため、もう少し広いといいなと思う」という意見もある。指導訓練室だけでも80㎡ある。これ以上広い場所に移転するのは、家賃の問題もあり、難しいと考えられる。
- ・「指導員の配置人数は適切であるか」の項目に、「子ども1人ひとりをととてもよく見てくれている。いつも十分な人数でありがたい」という意見もある。非常勤職員を確保し、必要な職員数は維持するように引き続き努めたい。
- ・「虐待と思われるようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」の項目に、「ゆうやけ以上に安心できる場はほかにない」という意見もある。こうした信頼を得られるように引き続き努めたい。
- ・「子どもの育ちの状況を確認、保護者との面談もしながら、個別支援計画書が半年に1回は見直し、作成されているか」の項目に、「日々の様子から、小さな変化や成長をとらえ、スモールステップで、さらに深めるために支援内容が考えられている」という意見もある。支援計画書は、子どもの小さな変化も確かめ合う機会とする位置づけで引き続き作成したい。
- ・「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」の項目に、「子どもの気持ちや興味に合わせ、散歩や公園遊び、玩具遊び、本の読み聞かせなどが工夫して行なわれている」という意見もある。「子どもは活動を楽しみにしているか」の項目には、「とても楽しく通っている。毎日『ゆうやけ行く!』と言っている」という意見もある。「活動に満足しているか」の項目には、「すごく楽しく過ごしているようで、ゆうやけ大好き」という意見もある。子どもの内面の課題に即しながら、子どもが楽しみに通ってくれる活動を、さらにつくり出していきたい。
- ・「保護者の思いや願いを汲み取るため、懇切に対応されているか」の項目に、「『寒い、暑い、喉が渴いた』などを話せないのが、配慮をお願いしているが、1つひとつやっただき、ありがたい」という意見もある。体調管理などに細かな配慮が必要な子

どももいるため、保護者との密な連絡を引き続き図っていききたい。

- ・「保護者との面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取られているか」の項目に、「コロナ禍ではあるが、希望者には時間をとって、対面の面談を行っている」という意見もある。「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会がつかれているか」の項目には、「保護者会などで、第1・第2・第3とも顔がわかる機会があり、満足している」という意見もある。コロナ禍ではあるが、感染防止の配慮をしながら、保護者と話したり、保護者同士で話し合ったりする機会を引き続き大切にしていきたい。
- ・「親子行事、きょうだいの会など、保護者や家族が交流できる機会が工夫されているか」の項目に、「遠足などあるのがありがたい」という意見もある。コロナ禍ではあるが、感染予防の対策をとりながら、屋外での親子行事などを引き続き実施していきたい。
- ・「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくろうとされているか」の項目に、「父母会で学習会を開催するにあたり、保護者のOGの方に講師を依頼するなど、協力してもらっている」という意見もある。保護者の自主的な活動である父母会の学習会などが、保護者自身の抱える課題に即したものになるように引き続き協力していきたい。

○職員による自己評価

- ・全体的に「はい」が多数になっている。
- ・「子どもにとって危険がともなうような、施設や備品の損壊・故障などはないか」の項目に、「気づき次第、危険のないように対処している」という意見もある。「ガラス窓や照明器具などの破損によるガラスの飛散が起こらないような対策をとっているか」という項目には、「飛散防止フィルムを貼っている」という意見もある。事故防止のための環境整備に引き続き努めたい。
- ・「子どものことがわからないと感じたとき、早わかりしようとせず、(どうしてなのか)と、自らに問い続けているか」の項目に、「どうしてなのか考えているうちに、(もしかして、こういうことかな?)と、子ども理解に近づけると思う」という意見もある。「子どもの“問題行動”に出会うとき、わが身に引き寄せるなどして、その理由を共感的に理解しようとしているか」の項目には、「子どもがどう感じているのか、自分の子ども時代を思い出して、考えたりする」という意見もある。「子どもの発達は、ひたすら前進するのではなくて、新しい矛盾を抱え込むと押さえて、子どもを理解しようとしているか」の項目には、「周りの状況が見えるようになるなどして、新たな葛藤も出てくると思うので、ゆったりとした姿勢で寄り添いたい」という意見もある。子ども1人ひとりを理解することは、実践の基本であり、職員の専門性が最も問われる課題であることを引き続き踏まえていきたい。
- ・「会議や研修会を定期的を開いて、子ども理解や実践などについて深めたり、学習したりしているか」の項目に、「第1・第2・第3での合同研修会を年3回開き、実践の具体例をあげて、子ども理解を深めている」という意見もある。子ども1人ひとりを理解することを中心的な課題にした研修会を引き続き開いていきたい。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」の項目は、「はい」が「6」、「わからない」が「3」、「いいえ」が「4」とな

っている。外部の研修会への参加も引き続き働きかけていきたい。

- ・「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会をつくっているか」の項目に、「保護者会では、日々の子どもの活動の様子を写真も交えて報告している」という意見もある。保護者と関係をつくるには、子どもの状況を伝え合うのが基本となることを引き続き大切にしたい。
- ・「親子行事やきょうだいの会などを行なって、保護者・家族が交流を深める機会をつくっているか」の項目に、「11月に、少し遠くの公園までハイキングしたり、2月に、焼きイモ会を予定したりしている」という意見もある。コロナ禍ではあるが、感染対策をとりながら、屋外での親子行事などに引き続き取り組んでいきたい。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。また、意見欄に感想がたくさん書かれている。
- ・子ども1人ひとりの、人間としての願いや悩みを汲み取り、それを保護者とも共有していくことに引き続き努めたい。また、保護者の言葉に込められた、わが子への願いを深いところから理解することに引き続き留意したい。

○職員による自己評価

- ・ほとんどが高い評価となっている。
- ・保護者と深い信頼関係をつくるには、子ども1人ひとりを理解しておくことが必要であることを引き続き踏まえたい。日常の子育ての中に、新しい発見をして、喜び合うことを引き続き大切にしていきたい。
- ・内部の研修会はもちろんのこと、外部の研修会への参加も引き続き呼びかけていきたい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2023年1月31日より）

○ホームページへの掲載（2023年1月31日より）